

# 今宿地区



今宿地区は、区の中央部に位置し、帷子川を軸とする南北に広がる丘陵地域です。区域の真ん中を国道16号と帷子川が通っています。

年齢構成では、団塊の世代とそのジュニア世代の特出が比較的是っきりと表れています。そのため、さらに団塊ジュニアの子ども世代（年少人口）も多い地区です。

## ■めざす地区の姿

◇多くの人と交流ができ、支え合うまち今宿

◇安心してくらすことのできるまち今宿

## ■目標A

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

## 子ども・高齢者の見守りネットワークづくり

### ■具体的な取組

○学童の通学時の交通指導・防犯の見守り

○学校における交通・防犯の啓発支援

○昼食会や配食、サロンの開催による高齢者の見守り

※以上は自治会町内会ごとに行います。互いに情報交換をして地区全体に広がります。

○地域のサポーターが高齢者・障害者へのチョットした困りごとのお手伝いをする「今宿地区チョットお手伝い」を立ち上げます。



昼食会



見守り

■目標B

安心してくらすことのできるまち今宿

■具体的な取組

○「こまった時のあんしんカード」配付

- ・外出先で万が一の怪我や病気に見舞われた際、周囲の人の手助けを受けての救命率アップを目指します。
- ・普及のため、自治会町内会等の地区行事参加の際にも携帯を呼びかけます。

対象：70歳以上の自治会町内会加入者

○防災体制の充実

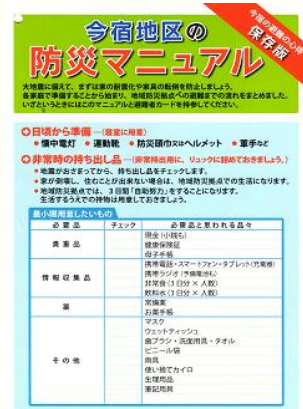
- ・地域防災拠点・連合会・自治会町内会での防災訓練の継続
- ・今宿地区防災マニュアルの共有



あんしんカード



防災訓練



防災マニュアル

■目標C

住民同士の交流促進

■具体的な取組

○子どもから高齢者まで誰もが参加できる交流の場として、自治会町内会等の地区行事を継続的に企画・実施します。高齢者の席を設けるなど、配慮をします。

○「今宿地区だより」(平成27年発刊)を年4回発行し、地域活動をより広くお知らせします。



レクリエーション



広報誌

■目標D

次世代の担い手育成

■具体的な取組

○ジュニアボランティアの推進

○中学生ボランティア事業の推進

自治会町内会等の地区行事の際にボランティアを募集し、また中学生参画による模擬店出店等を行います。



ジュニアボランティア



福祉のつどい



模擬店

今宿地区の主な行事



どんど焼き



防災訓練



レクリエーション大会



盆踊り

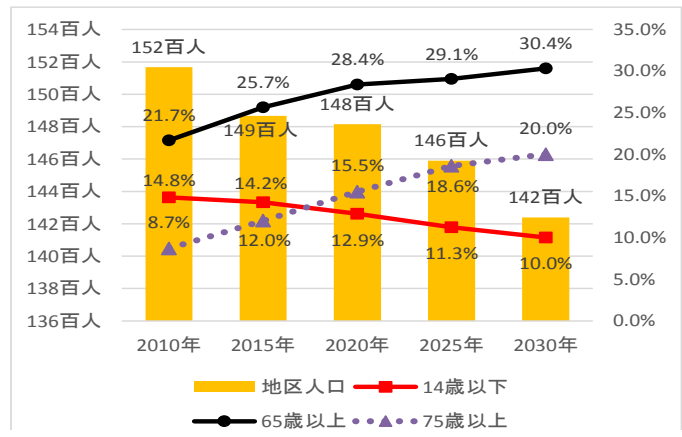
どんど焼き	【1月】
防災訓練	【6月】
盆踊り	【7月】
レクリエーション大会	【10月】



## ■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）とほぼ同じ比率形態をしているが、20 歳から 34 歳の層の比率がやや低く 40 歳から 54 歳の層の比率が高くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 300 人減少しています。高齢化率は 4% 増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で概ね 6400 戸前後で推移しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.21 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 14800 人、2025 年で約 14600 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 28.4%、2025 年で約 29.1%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



## ■2期計画の振り返り

### ○「私の健康カード」と「防災安全カード」

- ・継続的に作成・配布し、地域住民の中に定着してきた。
- ・民生委員が活動する上でも役に立っており、救命に役立った実績もある。

### ○防災体制の充実

- ・各町内会で「いつとき避難場所」を定め、防災訓練時もまずそこに集合することで、定着を図った。
- ・連合会館を災害時避難場所として活用することの検討が進んだ。  
平地で利便性が良く、地域防災拠点に行けない高齢者のニーズが高い。

### ○困ったときの「あんしんカード」

- ・外出時に持参している人が少ない。自分が倒れることを想定していないからか。  
持っていてよかったという実例と共に周知を図る必要がある。

## ■地区の福祉課題

### ○子ども・高齢者の見守りネットワークづくり

- ・子どもの多い今宿地区（年少者人口が多い）。  
子どもが健やかに育つための子育て支援や、学童の見守りが必要。
- ・高齢化率は深刻ではないが、支援を要する高齢者は点在している。  
一人暮らし高齢者の見守りが必要。

### ○安心してくらすことのできるまち今宿

- ・自宅で万が一の怪我や病気に見舞われても安心できるよう、「私の健康カード」を配付済（2期計画）。  
外出先でも安心を得るため、「こまった時のあんしんカード」をさらに広げる必要がある。
- ・災害時に備え、防災体制の充実を図る。

### ○住民同士の交流促進

- ・今宿地区は行事がさかん。行事を通して交流の輪を拡大し、コミュニケーションを図る。
- ・自治会町内会や地域団体の活動・取組が広く知られていない。

### ○次世代の担い手育成

- ・自治会町内会行事や地域活動に関わる次世代の担い手育成が必要である。
- ・小学生ジュニアボランティア、中学生ボランティア事業の更なる支援が必要。

## ■福祉保健施設の分布



## ■施設リスト

子ども

### 認可保育所

- ① 横浜国立今宿保育園

### 幼稚園

- ② 今宿幼稚園
- ③ 清来寺幼稚園

高齢者

### 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ① フレンドィ都岡
- ② パティオつくいけ

### 介護老人保健施設

- ③ けいあいの郷今宿

### 特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)

- ④ シルバーライフはなみずき



# 川井地区



川井地区は、区の北部に位置し、帷子川流域の最も大きい地区で、区域の大半は市街化調整区域であり、自然的土地利用が多く、もともとの地形の改変程度は比較的小さな地区です。矢指市民の森、追分市民の森、ズーラシア、ゴルフ場など多くの緑に恵まれています。

人口は横ばいで、その年齢分布は旭区全体の分布とよく似ています。

## ■めざす地区の姿

### 顔と顔が見える明るいまちづくり

- (1) 豊かな自然環境をいかした健康づくりで笑顔が溢れるまち
- (2) 安全で安心して明るく、連帯感があるまち
- (3) 隣近所とのふれ合いや、地域交流が活発にみんなで協力し合うまち

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

## ■目標A ~参加しよう~

### 緑豊かな自然にふれるのと、健康づくりと介護予防を推進する

#### ■具体的な取組

- 区域内の史跡や歴史を紹介する「川井地区歴史散歩」のマップを作成し、全戸へ配布、散策のツールを提供する。
- 川井地域ケアプラザと協働で認知症予防の体験講習を推進し、早期発見を図る。



連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

## ■目標B ~つながろう~

### 安全で安心して暮らせる町・連帯感のある町づくりを推進する

#### ■具体的な取組

- 一人暮らし高齢者や障害のある人達を地域で支える見守り体制の仕組みを作る。
- 大規模地震発生時の要援護者に対し登録者リストを更新し、運用の仕組みを再生する。
- 車椅子での避難（受け入れ施設へ）を必要とする要援護者を個人から地域で支える取組を進める。
- 夜間のコンビニやたまり場へのパトロールを増やし見守りの強化を図る。



■目標C ～元気になろう～

**太陽の下を歩くこと・走ることで元気カアッフ**  
**地域交流も活発になる町づくりを進める**

■具体的な取組

- 川井地域で生産される野菜類の直販ポイントをマップで紹介し気軽に散策出来る情報を提供する。
- 多世代で楽しむ健康づくり（レクリエーション大会、世代間ランドゴルフ、体力測定等の元気づくりステーション）を継続し、地域交流を進める。

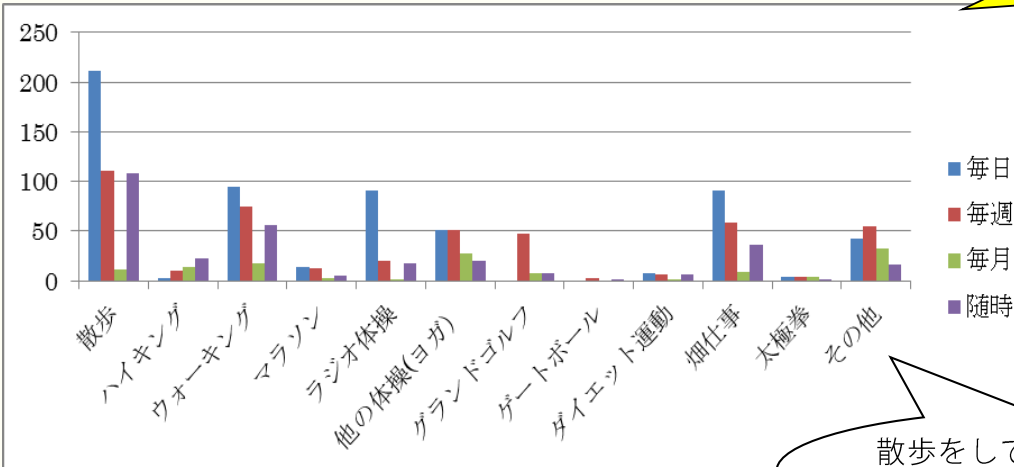


**「健康で幸せな生活をおくるには！」アンケート結果(抜粋)**

「健康で幸せな生活をおくるには！」のアンケートを実施しました！

健康でいきいきと生活するために継続的な健康づくりを行っていますか？

回答世帯数  
**1,611件！**



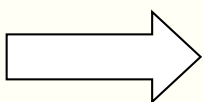
<BEST 5!>

- 1：散歩
- 2：ウォーキング
- 3：ラジオ体操
- 4：畑仕事
- 5：ヨガ

散歩をしている人がとても多いことがわかります。

地域で安心して生活を続けるために心配していることは？

防犯／健康／見守り／防災／道路／地域交流／マナー／子育て などのご意見があり、なかでも、地域交流（近隣住民とのつながり）への心配の声が多くありました。

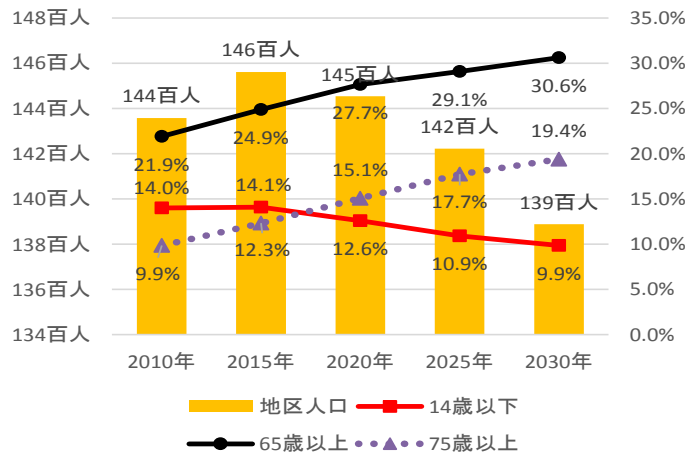
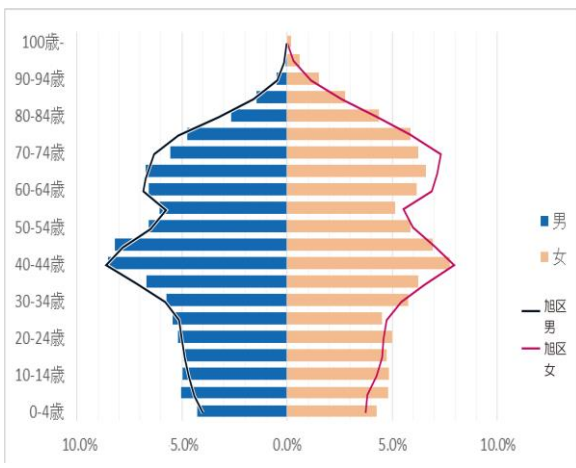


川井地区では、ウォーキング大会の実施やウォーキングマップの作成などを行っています。第3期でも継続して取組んでいくとともに、他の課題についても検討していきます。

## ■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）とほぼ同様の構成となっているが、男性は団塊世代以上、女性は団塊世代を含む層の比率がやや低くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 200 人増加しています。高齢化率は 3% 増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で概ね 270 戸増加しています。また、世帯人員は 2015 年で 2.21 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 14500 人、2025 年で約 14200 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 27.7%、2025 年で約 29.1%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



## ■ 2期計画の振り返り

### ○要援護者の見守り活動

地震災害等で家が倒壊し住むことが出来ない人を一時避難場所として、介護施設（9施設）を利用する事を施設側と連携し利用者登録をおこなった。また、避難訓練も実施した。

### ○世代間交流の推進

子どもから高齢者も楽しめるグランドゴルフ大会やレクレーション大会、演芸大会等のイベントを開催し世代を交えた交流を図った。また、幼児と母親の交流会（ぽっかぽか）も毎月実施している。

### ○地域交流の広報活動を推進

「川井地域催しマップ」や「ウォーキングマップ」を作成し配布。各地域の行事や史跡、野菜直売場所等を紹介する事で情報の共有と参加意識の高揚を図った。

### ○安全安心町づくりの推進

「川井地区防災マニュアルⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を作成し全戸へ配布。いっとき避難から防災拠点での運営等必要事項を纏めている。また、避難訓練等に活用されている。

### ○その他継続活動

小、中学校の登下校の見守りと挨拶運動を推進。また、夏休みの「地球クリーン作戦」も実施した。

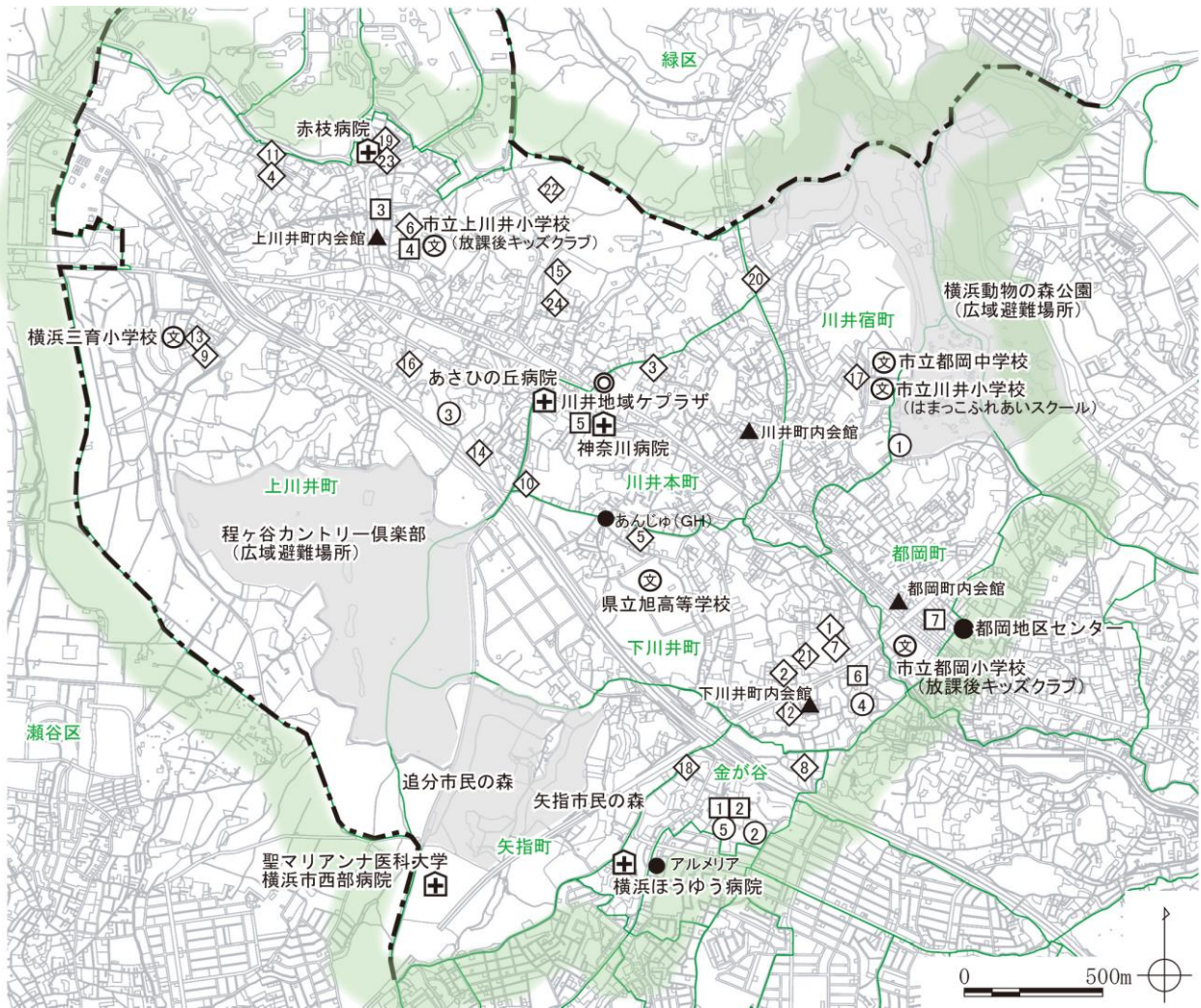
## ■地区の福祉課題

「健康で幸せな生活をおくるには！」のアンケートを地域全体に実施し何が課題かを纏めた。

- (1) 近隣住民との挨拶やふれ合いの機会が少ない、つながりのある町づくりが求められている。
- (2) 中高年層に対し元気なうちから認知症予防等の健康づくりが必要である。
- (3) 孤立している人、引きこもりがちの人達に交流の呼びかけや、居場所の提供が必要である。
- (4) 大規模地震発生時、要援護者の登録情報を再構築する必要がある。



## ■福祉保健施設の分布



## ■施設リスト

- 子ども**
- 認可保育所**
- ① 横浜市立川井宿保育園
  - ② ひまわり愛児園
- 幼稚園**
- ③ 上川井幼稚園
  - ④ 都岡幼稚園
- 児童養護施設**
- ⑤ ポート金が谷

- 障害者**
- 障害者施設**
- ① やすらぎの園
  - ② くるみ学園
  - ③ 虹のかけはし
  - ④ 第2虹のかけはし
  - ⑤ ヴィラあさひの丘
  - ⑥ いっぱい
- 障害児施設**
- ② くるみ学園
- 地域活動支援センター (地域作業所)**
- ⑦ ウイングス

- 高齢者**
- 小規模多機能型居宅介護**
- ① ひまわり
- 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)**
- ② 樹林の風
  - ③ サリューブルあさひ壺番館
  - ④ あかね
  - ⑤ つどい
  - ⑥ 青い空と緑の大地
  - ⑦ ゆうあい
  - ⑧ みんなの家 横浜金が谷
- ケアハウス**
- ⑨ シャローム桜山

- 高齢者**
- 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)**
- ⑩ 旭ホーム
  - ⑪ あだちホーム
  - ⑫ さくら苑
  - ⑬ シャローム横浜
  - ⑭ 弥生苑
  - ⑮ 水の郷
  - ⑯ サニーヒル横浜
  - ⑰ かわいいの家
- 介護老人保健施設**
- ⑱ 老健リハビリよこはま
  - ⑲ グリーンリーブズ赤枝
  - ⑳ シオンよこはま
  - ㉑ ほほえみの郷 横浜
  - ㉒ 希望の森
- 特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム)**
- ㉓ ミニハウス オレンジヒルズ
  - ㉔ アモーレ 水の郷

# 若葉台地区

若葉台地区は、区の北端に位置し、帷子川の源流域である丘陵地を大規模開発した集合住宅団地です。団地中央には商店街や公共施設があり、歩車分離道路や、緑に囲まれた計画的な街並みが形成されています。



## ■めざす地区の姿

### 孫子老のまち若葉台を目指して～現在から未来へ～

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

## ■目標A

### 向こう三軒両隣につながるコミュニケーション

#### ■具体的な取組

##### ○イベントの声掛けやあいさつなどにより、交流を深める

- ・地域の各種イベントに参加して顔見知りを増やす（自治会、棟委員、階段委員呼びかけ）
- ・（団地内各棟の）上下左右階の居住者と交流する
- ・若葉台ですれ違う人にあいさつする
- ・クリーンデーでの交流理解を深める
- ・近隣の人たちと、サークル活動を行う
- ・棟集会を活用した交流をする

##### ○地域での孤立化を防止する

- ・孤立してしまう人を増やさない（高齢者、障がい者、ひきこもり）
- ・高齢者の人間関係づくりの促進
- ・既存の場の有効活用により、自助努力を支援する（友愛活動や民生委員などへの情報提供につなげる）
- ・回覧板の手渡し時にあいさつや情報交換をする

##### ○情報の充実を図る

- ・自治会活動のPRを充実する（グループネットワーク促進、登録制度、有償活動など）
- ・（各棟の）階段委員が中心となり、回覧板の質を高める（重要な情報、お得情報、楽しい情報を定期的に行う）

##### ○障がい児者への理解を深める

- ・地区社協がボランティアを募り、障がい児者に対する支援をしていく
- ・地域行事等で、既にあるグループの参加PRをしていく



夏まつり



障害者理解ふれあいフェスタ



■目標B

## 多世代交流の促進

■具体的な取組

○若い世代を対象とした取組を進める

- ・子育て支援を通じた多世代交流
- ・親子で選べる企画の実施

○子どもから高齢者が一緒に参加する取組の実施

- ・孫子老の日を充実させる（学校との連携、各自治会での展開）
- ・昔遊びなどを通じた多世代交流の実施
- ・多世代交流サロンの実施

○青少年から参画出来る行事を進める

- ・気軽に準備から参加できる青少年向けの行事の実施
- ・学校との交流を通して中高生に参加協力してもらう

○地域行事の継続及びそこへの参加の働きかけ

- ・多世代交流を意識した取組
- ・今ある取組や行事をPRし、参加者を増やす
- ・行事やイベントを多世代交流を意識した取組にする



多世代交流  
みんなあつまれ



孫子老の日

■目標C

## 居場所づくり

■具体的な取組

○誰もが気軽に集える場所を作る

- ・自治会集会所を使う
- ・公社に施設提供の要請を行なう
- ・公園の有効活用を進める
- ・多世代が日常的に交流できる居場所を作る
- ・少人数でも集まって話ができる場所を提供する

○高齢者や障がい者が外出できる場所を作る

- ・自治会と老人会の協力体制の充実を図る
- ・老人会の加入者を増やす
- ・高齢者や障害者を対象とした昼食会等を実施する
- ・健康チェック、介護予防につながる担い手を増やす
- ・サークル活動の充実

○サロン活動を充実させる

- ・既存のサロンの活動団体が、更なる活動内容の充実を図り、地域への周知を広める



親と子のつどいの広場  
「そらまめ」



自治会主催のサロン



プレイパーク



■目標D

# ボランティアの育成～活動に参加しよう～

■具体的な取組

○ボランティア活動へのきっかけ作りをする

- ・自治会活動への参加を推進する
- ・経験者の力を発揮できる場を創出する
- ・幅広い年代の区民（住民）が参加可能となる仕組み作りをする
- ・簡単にできるボランティア活動を創出する
- ・ボランティアへのアフターフォローをする



孫子老の日

○児童生徒への働きかけをする

- ・学校教育の一環として、ボランティア活動に参加する仕組みを作る
- ・小学校5、6年生はジュニアボランティア活動、中高生は福祉委員になってもらう

○ボランティア情報の周知と共有をする

- ・ボランティア情報の発信と活動の見える化をする
- ・若葉台全体でボランティア登録などをして、各組織の行事ごとのボランティアを獲得しやすくする



赤い羽根共同募金



チャリティーバザー

## 若葉台全体の行事！



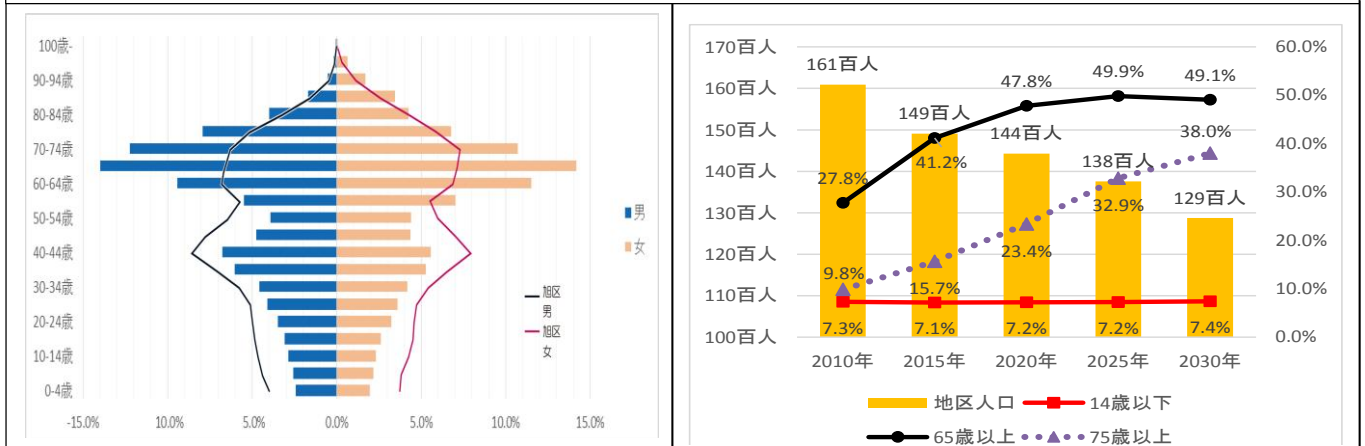
6月の高齢者交流会や7月の夏まつり、10月の大運動会や11月の文化祭など若葉台には多くの行事があり、多数の皆さんの参加があり世代を超えた交流の場がありますが、それらを継続していく事が大切と考え、地域全体で取組んでいます。



## ■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上の層の比率が男女とも高く、55歳未満の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約1200人減少しています。高齢化率は41.2%で、区内でも高い地区のひとつです。
- ・世帯数はこの5年間でほぼ横ばいの状況です。また、世帯人員は2015年で2.22人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約14400人、2025年で約13800人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約47.8%、2025年で約49.9%となり、ピークをむかえると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



## ■2期計画の振り返り

### 5年間で取組んだこと

#### ○地域ニーズとしての「向こう三軒両隣」

- ・毎年3月に行われる高齢者等見守り事業等報告会は、各自治会の情報を共有出来る機会として引き続き開催し、安心安全のまちづくりのキーワードとしていく
- ・地域力を上げるために多くの地域の方々が知恵を出し合い、先駆的な取組を“若葉台”として進めていく

#### ○分科会に、連合会長、防災担当等も参加してもらい、協力・連携の強化を図った

#### ○情報収集シートの検討、第3稿まで作成

#### ○わかばネット、NPO若葉台による情報交換会を開催

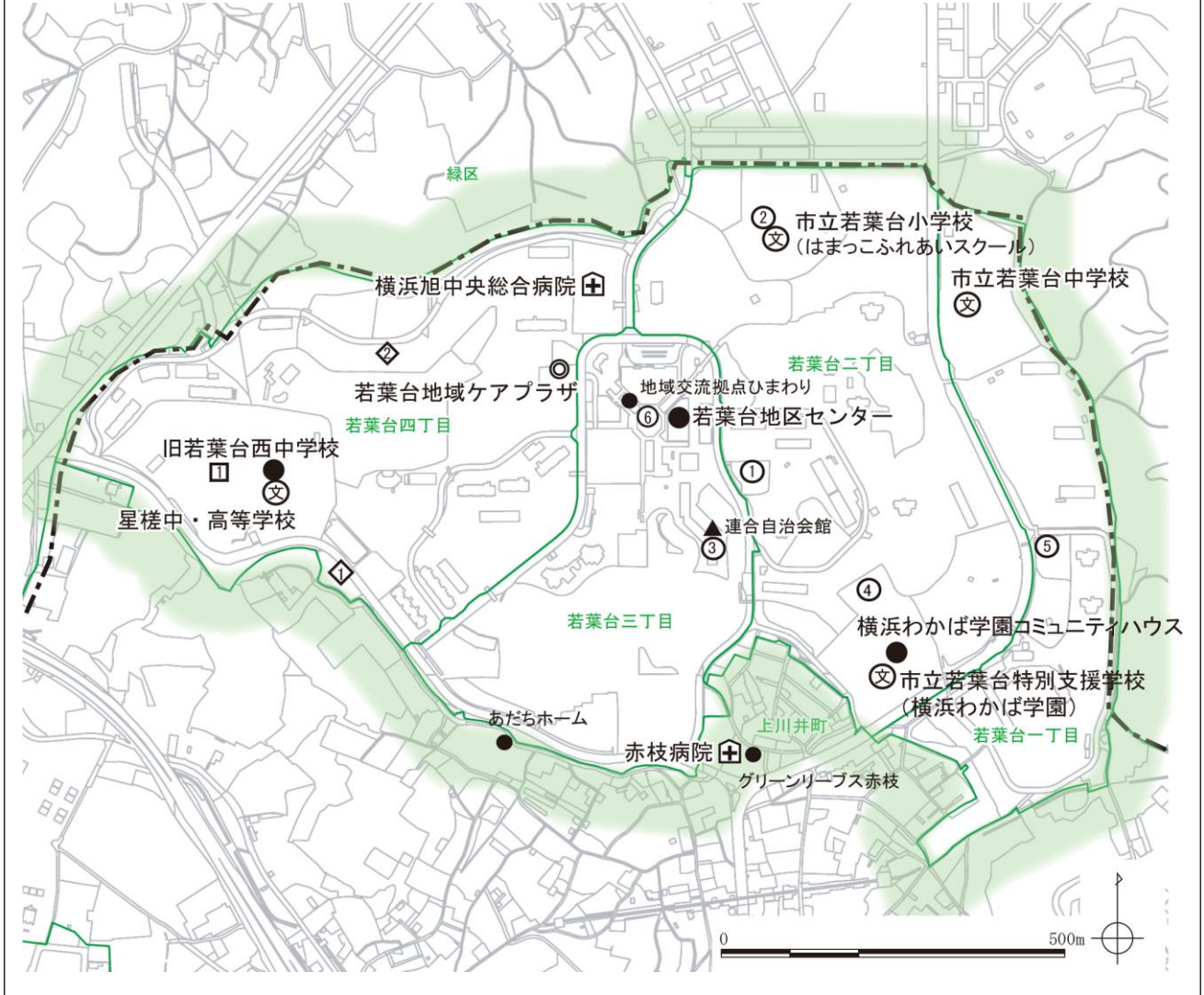
#### ○3分科会は、専門化して検討するという意味ではよいのだが、参加者が分散し、少数化するため、議論が十分機能せず方向性が打ち出せない面もあった

- ・現行の分科会方式に限界があった為、課題をもう少し絞って検討していき、地域全体を俯瞰しながら検討出来る体制作りをしていく
- ・定期的に話し合いをもち、課題解決に向けて継続的な情報共有をしていく

## ■地区の福祉課題

- ・向こう三軒両隣の継続的推進
- ・超高齢化になり、介護予備軍が元気にいてもらう必要がある
- ・様々な情報がまちの中央に集中してしまっている
- ・老人会などの各団体に新たに入ってくる人が少ない
- ・若い世代の意見をくみ上げ、参加してもらう仕組みが必要
- ・中高生など学生がまちの活動に参加する機会が少ない
- ・ボランティア活動への協力者の育成

## ■福祉保健施設の分布



## ■施設リスト

### 認可保育所

- ① 横浜市立若葉台保育園
- ② わかばの森保育園

### 放課後児童クラブ

- ③ 若葉台中央学童保育所

### 幼稚園

- ④ プレスクール若葉幼稚園
- ⑤ 若葉台第一幼稚園

### 親と子のつどいの広場

- ⑥ そらまめ

子ども

障害者

### 地域活動支援センター（地域作業所）

- ① 若葉台ぶんげいざ

高齢者

### 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）

- ① トレクオーレ横浜 若葉台
- ② ヴィンテージ・ヴィラ横浜



# 笹野台地区

笹野台地区は旭区の西部に位置し、西側は瀬谷区に隣接し、最寄り駅は三ツ境駅です。昭和30年ごろから開発が始まった新興住宅地で、集合住宅は比較的少なく、戸建て住宅が中心の地区です。

この5年間に人口は約400人減少し、区全体に比べても高齢化が進んでいます。



## ■めざす地区の姿

**自治会単位で、近隣の住人のことをお互いによく知り、助けあって「住みよい街」「明るい街」「安心して暮らせる街」となれるよう努めます。**

## ■3期計画の主なポイント

自治会長を「笹野台地区ささえあい連絡会」の幹部役員に位置づけ、地域の諸行事の推進役になって頂き、自治会と地区社会福祉協議会を中心に地域全体で取り組みます。

## ■目標A

連動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

# ボランティア不足への対応、発掘と育成

## ■具体的な取組

- 各自治会内で「口（くち）コミ紹介制度」を推進する。
- 「ホームページ」や「ささのだいニュース」にボランティア情報を掲載する。
- 「ボランティアの有償化」について検討する。

【自治会・地区社協】



《ちょっとしたお手伝い》



《お出かけ支援》

■目標B

小中高生の地区行事への参加を活性化させる

■具体的な取組

- 学校との協働により参加人員を増やす。学校でボランティア募集活動を行う。
- 各家庭への働きかけ。自治会イベントを通じて地域活動への参加を促す。
- 防災訓練、清掃活動（北公園・緑地など）への参加を募集する。

【自治会・地区社協・子ども会・青少年指導員・スポーツ推進委員】

《盆踊り大会》



《どんど焼き》



《みかん狩り》



《連合体育祭》

■目標C

住民相互の見守りシステムの構築(高齢者を含む)

■具体的な取組

- 近隣の人々をよく知る。種々のイベントで皆さんとよく話せる関係を作る。
- 「この人のことは誰に聞けばわかるか？」支えあいマップを構築する。
- 各組・班の高齢者を隣人が見守る。

【民生委員・児童委員・自治会・老人クラブ】



《福祉講演会》

■目標D

老人クラブの活性化

■具体的な取組

- 単位老人クラブごとの目標値を決めて加入率を向上させる。
- 各クラブで活動内容を充実させ、魅力あるクラブとして脱皮する。

【老人クラブ・自治会】



《老人クラブ✿ウォーキング》

■目標E

青壮年の交流の場を創設する

■具体的な取組

- 参加しやすいプログラムを創り出す。
- 自治会・社協主催の諸行事（従来型）に多数の参加を募る。

【スポーツ推進委員・青少年指導員】



《成人女子バレーボール大会》 《グランドゴルフ大会》

《卓球大会》

■目標F

女性の交流の場の活性化(ケアフラザとの共催事業)を図る

■具体的な取組

- 新人の参加を図り、輪をもっと広げていく。
- 魅力あるプログラムを考える。
- 各自治会館での出前講座を行う。

【自治会・地区社協】



《第3月曜クラブ》



《サロン『お茶べり会』》



## ■目標G

### 高齢者の交流の場の拡充

#### ■具体的な取組

- ケアプラザ・笹野台会館から遠い人のために、各自治会館で出前講座をしっかりと行う（ケアプラザとの協働でサロン活動・ミニ講座など）。
- 引きこもり高齢者を誘い出すよう努力する。
- 対象者のニーズ（講座内容・時間帯・金額など）を把握するため、アンケートを実施する。  
【自治会・地区社協・老人クラブ】

ほっとサロン  
だんらん

サロン  
ひとやすみ

《出張サロン》

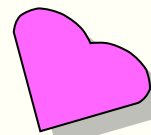
## ■目標H

### 障がい者の把握および対応への準備

#### ■具体的な取組

- 情報の把握につき検討する。
- 障がい者へ理解を深めるために研修・講座を実施し、対応への勉強をする。  
【地区社協・民生委員・児童委員】

地域のやさしい  
見守り

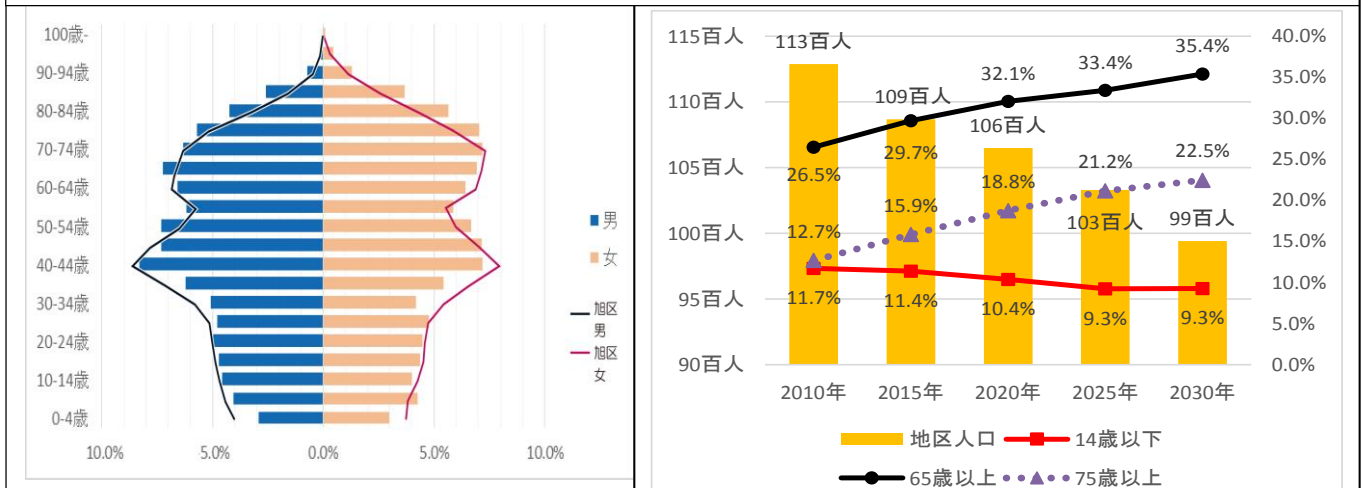


**組織に縛られず  
【地域が一体となって活動目標を推進します!!!】**

## ■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）と近い構成比率となっているが、65歳以上の層の比率は区平均より高くなっています。その一方で、30歳代の層の比率が区平均よりも低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約400人減少しています。高齢化率は約3.2%増加し、旭区平均より高くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で概ね4900戸前後で推移しています。また、世帯人員は2015年で2.24人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約10600人、2025年で約10300人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約32.1%、2025年で約33.4%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



## ■2期計画の振り返り

年間約9回の地区社協常任理事会を開催し、活動内容等の情報共有を行いながら、連合自治会と協力して活動を行うことができたため、目標に掲げた取組については概ね計画どおりに進み、広報活動を通して活動をPRするなど、活動を拡大してきた。

一方、活動の担い手であるボランティアが高齢になってきており、活動を続けることが困難になってきている。活動を維持、拡大していくためにも新たな担い手の確保が必要である。

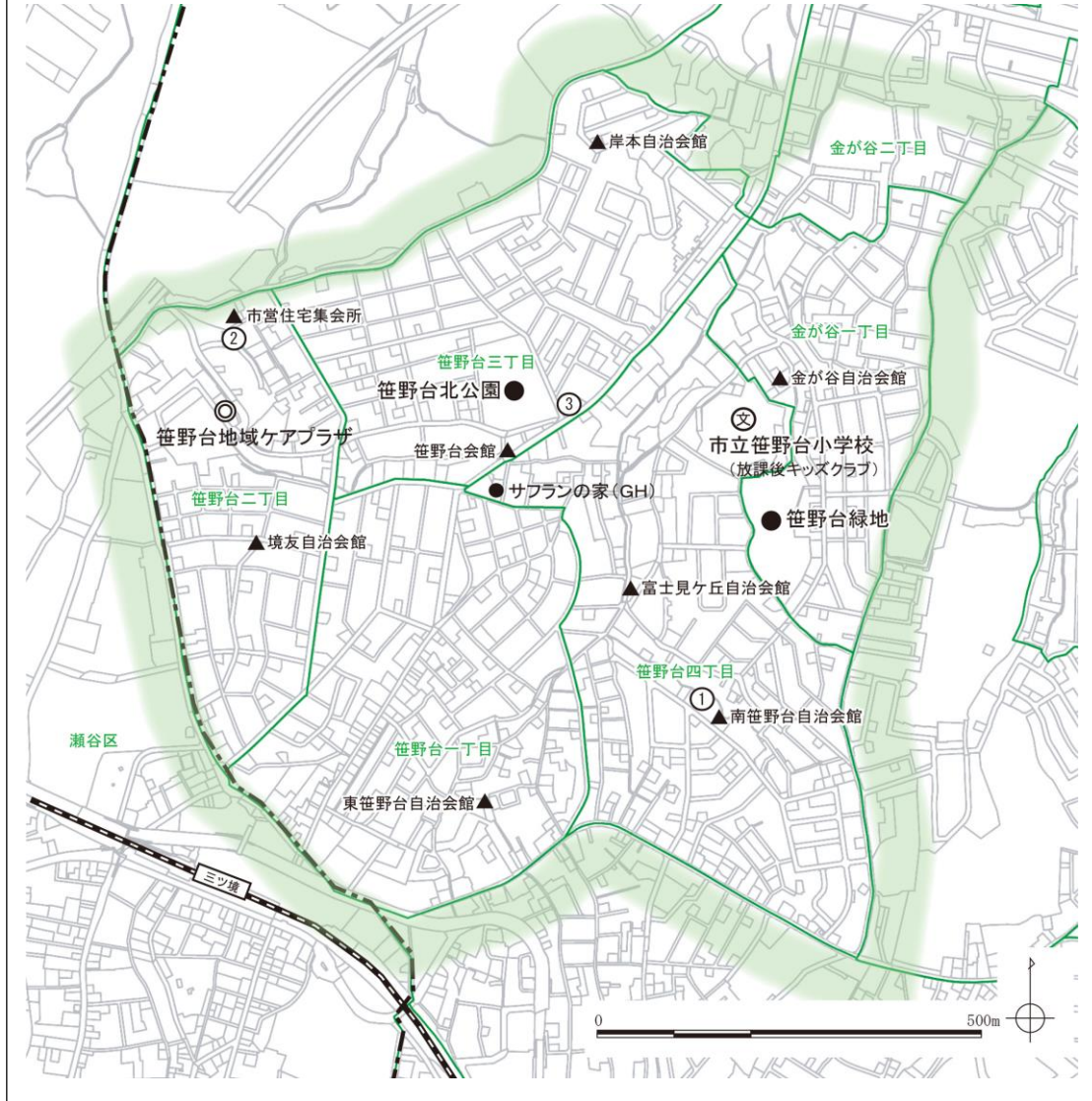
### ※取組の一部

- 昼食会会場の多点展開・・・お楽しみ会付きの昼食会を1か所で月1回実施。
- 広報活動の充実、強化・・・ホームページを開設し、地域行事や防災・防犯情報等を掲載。広く情報発信できるようになった。
- 子育てサロンの充実・・・毎月2回の実施、親のための喫茶コーナーを併設。
- サロン「お茶べり会」の創設・・・毎月第1金曜日に実施。
- 第3月曜クラブの創設・・・毎月第3月曜日に実施。
- 外出困難者への送迎対応・・・PR活動の結果による利用者の増加（26年度実績：918回）。

## ■地区の福祉課題

- ボランティアの高齢化および後継者不足。
- 買い物難民の支援が必要。
- 各種取組への参加が固定化されてきているため、参加者を増やす工夫が必要。
- 青少年事業においては中高生の参加を促す必要がある。

## ■福祉保健施設の分布



## ■施設リスト

子ども

### 認可保育所

- ① キッズビレッジつくし保育園

### 横浜保育室

- ② たんぽぽ共同保育園

### 放課後児童クラブ

- ③ 笹野台げんきキッズ



# 希望が丘地区

希望が丘地区は、東西にのびる、一連の丘陵地に開けた住宅地で、南部は南斜面、北部は北斜面となっています。駅周辺から放射線状に道路が整備され、駅周辺に商店街が形成され集合住宅が多く、さちが丘方面及び三ツ境方面は戸建て住宅が整備されています。



## ■めざす地区の姿

地域の支えあいを育む 活発な交流があるまち

## ■目標A

運動する区計画の柱 3 地域の取組で元気カアッ7

### あいさつの街をPRする(オアシス運動の推進)

#### ■具体的な取組

- 掲示板の活用やパトロールなどでのPRを積極的に進め、オアシス運動や地域行事の周知を行い、参加者を増やす。
- オアシス運動を通じて、日頃からの見守りの目を増やしていく。



登校の見守り活動



オアシス運動の看板



オアシス運動の掲示板

## ■目標B

運動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

### 地域の集まりで知り合いを増やす

#### ■具体的な取組

- 子どもや保護者が、地域行事に関心を持ってもらえるような工夫を取り入れて企画する。
- 地域行事や防災訓練等により多くの人に参加してもらい、交流を促進させる。
- 単位自治会で進められた良い取組を、他の自治会でも取り入れるなど、連合全体に広げていく。



運動会



防災訓練



子どもたちが太鼓をたたく夏祭り

■目標C

## 学校を通して交流を行う

■具体的な取組

- 保護者を含め、小学生や中学生の地域行事等への参加を継続し、ふるさと意識を高める。
- 様々な地域行事等に中学校にも関わりをもってもらい、ジュニアボランティア OB や OG など中学生のボランティア活動を推進する。
- 近隣高校と連携を図り、地域行事に参加してもらう。
- 地域行事の話し合いや活動に小中学生にも参加してもらう。



高齢者交流会でのジュニアボランティア



夏祭りのお手伝いをする小学生



K・K ネットのお手伝いをする中学生

■目標D

## 支えあいの輪を地域で広げる

■具体的な取組

- 高齢者や障害児者など支援が必要な人を見守る協力者や支援者の発掘（アンケートの実施等）および育成（交流会の開催等）を行う。
- K・K ネットや地域行事を通じて、多世代交流や障害児者支援を進める。
- 防災訓練に保育園や障害者施設など、様々な福祉施設に参加してもらい、当事者理解と地域との関係づくりを進める。



K・K ネット



松の会



さくら会

## 地区の活動情報

【K・K ネット】

「中学まで子どもは地域で育つ。多くの大人で育ちを見守ろう」という思いから、希望が丘南連合自治会と共同して、地域の子育てを応援しています。地域の公園で外遊びをしたり、子育てサロンやお話会季節の行事を実施したり、時には中学生のボランティアにもお手伝いしてもらっています。

【松の会】

ひとり暮らし高齢者の方を対象とした昼食会を、毎月第4金曜日に希望が丘地区センターで12時30分から行っています。

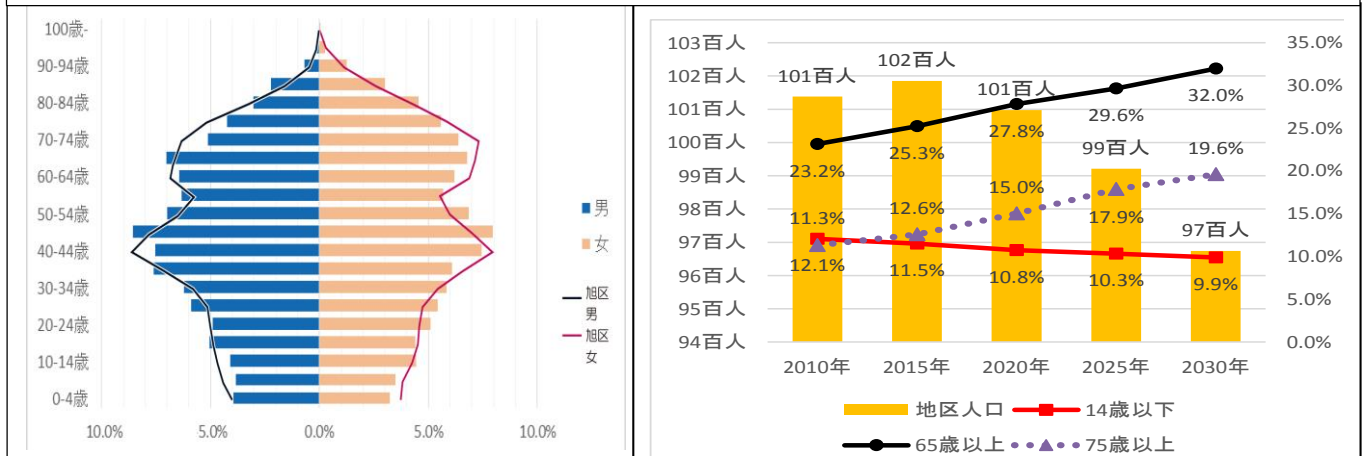
【さくら会】

脳血管疾患等の中途障害の方を対象に機能訓練や交流を、毎月第1・3火曜日13時30分から希望が丘地区センターで行っています。

## ■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）と近い構成比率となっています。その中でも45歳から49歳の層の比率が最も高くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間ではほぼ横ばいで、高齢化率は約2%増加したが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で概ね120戸増加しています。また世帯人員は2015年で2.09人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約10,100人、2025年で約9,900人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約27.8%、2025年で約29.6%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



## ■2期計画の振り返り

### ○「オアシス運動」の推進

- ・ポスター掲示や、パトロール等での声かけで運動はかなり浸透してきているが、なお努力の継続が必要。

### ○地域の集まりで知り合いを増やす

- ・「さくら会」「松の会」「K・Kネット」が地域と連携をとり、活動を活性化させている。

### ○学校を通じて交流を行う

- ・「高齢者を祝う集い」「環境美化運動」へ地元の小・中・高校生が参加し、関わりが深まった。

### ○支え合いの輪を地域に広げる活動

- ・「災害時要援護者アンケートによる、要援護者リスト、支援者リストの作成と、連合、各自治会・町内会、民生委員の間での情報共有している。

## ■地区の福祉課題

- ・障害児者への対応の推進  
障害児者の施設と地域との交流の活発化
- ・地域リハビリ教室の参加者減少、担い手の人数の方が多くなっている
- ・高齢者の取組での参加者の減少
- ・外出手段がなく、地域の活動に出てこられなくなっている
- ・小学生のジュニアボランティア後の活動として、中学生のボランティア活動の推進（活動場所の開拓や仕組みの構築等）
- ・中学校や近隣高校との関係づくり
- ・保護者世代のボランティア参加やボランティアに関する意識が低い。
- ・生活の中で、ちょっとした支援を必要としている高齢者や障害児者が、地域には多くいる
- ・住民の孤立化防止の取組の推進  
孤独死が起きないように、具体的な見守り方法の検討が必要。地域の見守りや安否確認に限界がある
- ・福祉の担い手の高齢化、活動者の固定化



## ■福祉保健施設の分布



## ■施設リスト

子ども

### 認可保育所

- ① 中希望ヶ丘保育園
- ② 夢のつぼみ保育園

### 認定こども園

- ③ やつはしキッズ

### 横浜保育室

- ④ プラス保育園

### 放課後児童クラブ

- ⑤ ハッ橋学園 やつはし学童クラブ
- ⑥ ハッ橋学園 やつはし第2学童クラブ
- ⑦ 第2ちびっこハウス

障害者

### 障害者施設

- ① 夏の空
- ② ミツ境どんぐりヒルズ
- 地域活動支援センター(地域作業所)
- ③ 旭カンパニー

高齢者

### 小規模多機能型居宅介護

- ① プルメリア
- 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
- ② ずうずう